豊玉二中だより

令和３年度 第３号
発行日　６月９日(水)
練馬区立豊玉第二中学校
校　長　　神山　信次郎

運動会を終えて　～成長とこれから～

主任教諭　　池川　健一

５月２９日(土)、運動会日和の中、第６０回運動会が開催され、生徒一人一人が活躍する素晴らしい運動会が開催されました。しかしながら、運動会の練習が始まる前までは、コロナ禍の影響で内容や時間が縮小されるとともに、学年ごとの実施となり、さらに、保護者の参観も中止となる例年とは大きく異なる予定の運動会に、豊二中の最後の運動会を思い出に残る素晴らしい運動会にしたいという３年生の思いを生かすためにどうしたらよいかと考え、悩みながらの日々でした。

そこで、私は最初の運動会実行委員会で、「今年は、生徒が主体となって作る運動会にしたい。先生に指示されたり、言われたりしてから行動するのではなく、自分たちが運動会を成功させるためにどのように行動すればよいかどうか考えることができる一つ上の運動会を目指してほしい。」と伝えました。コロナ禍の厳しい状況下でどうすれば運動会が成功するのか、どのように話せばみんなに伝わるのか、生徒一人一人に考えてほしかったからです。

そのためには、授業や学年練習、予行、運動会当日と運動会に関わる全てのことを実行委員中心に進める、これができれば、豊二中生はさらに成長することができるはずだと思いました。そして、生徒たちはしっかりとその期待に応えてくれたのです。授業で行ったことは、５０分の授業の使い方を考えさせることと授業の最初と最後の話をさせることです。初めは、何をしたらいいのか、何を話せばいいのか分からず進まないこともありましたが、回数を重ねるごとに練習の内容や話す言葉に気持ちが入るようになりました。

いよいよ迎えた運動会本番では、実行委員を中心に声かけをして、自分たちでどう動いたら良いかを考えて行動する姿が見られ、各学年がスムーズに競技を行い、生徒が主体的に創る充実した素晴らしい運動会とすることができました。自分たちが何をすればいいのか、次にどのように動けばいいのか、言われなくても動けるようになっていく姿がとても印象的でした。また、今年度は学年ごとの運動会ということもあり、他学年の生徒が係の仕事ができない状況でした。しかし、３年生は係や委員会の垣根を越えて競技に参加していない人たちで係を手伝い、１・２年生は係や委員会のメンバーが競技に参加している場合、限られた人数でできることをこなすなど、競技以外の場面でも全校生徒が、自分が何をすればよいかを考えて行動する姿を見ることができました。

このように生徒一人一人が何をすればいいのかを考えさせ、行動させることでコロナ禍の厳しい状況の運動会でも成功させることができました。３年生の運動会実行委員の４人を中心に、実行委員のメンバーには、経験したことのないことに戸惑いながらも乗り越えてくれたことに感謝しています。そして、コロナ禍の中、クラスで団結し、絆を強めていった豊二中の生徒全員がとても誇らしく思えました。運動会の経験を通して、生徒たちはさらに「チーム豊二」の絆を深めていくことができました。今回の経験を日々の学校生活でも活かし、さらにレベルアップした豊二中生になることを願っています。